



目の前の社会を問え!

現代の社会にはさまざまな問題が混在し、ひとつの観点から簡単に解決策を導くことはできません。

社会をより良くするという事は、その複雑な背景を十分に考慮する必要があります。

現代福祉学部では、それらの問題の背景を正確に読み解き、

何をどのように変えていけばいいのか、ということを実践的な取り組みを通して学んでいきます。

目の前の社会は今のままでいいのか。

“パラダイムシフト”は理想を探求する先にある。

社会課題

課題の根底にあるものは何なのか、背景を十分に把握した上で解決策を模索していきます。

ゲンプクでの学び

現代福祉学部(ゲンプク)では座学で理論を学ぶだけではありません。実践的な取り組みを通して自ら考え行動する中で、社会に必要とされる力を養います。

目指す社会

課題を解決していく先に何を描くのかも重要です。理想とする社会を見据えて、目の前の課題と向き合うことが求められています。

社会福祉

ソーシャルワーク

壁に立ち向かえ!
新たな視点から、糸口を見出す——眞保智子教授



社会課題

誰もが働きやすい職場づくり

障害の有無に関係なく働きやすい職場とは?人口減少で、多様な背景を持つ個人の能力を企業や地域社会に還元する重要性が増しています。大切なのは他者に負けない「絶対優位」ではなく、相対的な優位(比較的得意なこと)を見出してその能力を活用する「比較優位」の考え方です。

眞保ゼミ

「制度」「仕組み」「前例」にとられない課題解決を目指す

学生それぞれの課題意識に応じて、地域・福祉・企業の現場に足を踏み入れ、当事者と直に触れ合っ、生の声に耳を傾けることを大切にしています。そして、課題解決の障壁となる既存の制度やシステムをどのように改善できるか(時にはその壁を飛び越えることができるか)を考え、実践することを大切にしています。

身につく力

- 常識にとられない視点
- 「見えないこと」に気がつく洞察力
- 物事に新たな価値を見出す力



福祉で人を支える喜びを実感し、将来の夢が固まった
— 森 億人さん



異なる意見を受け入れることで視野が広がった
— 津川 美穂さん

ゲンプクでの学び



資料から知識を得るだけではなく、現場へ足を運び、当事者目線で問題や社会背景などを捉え直すことが大切です。



ソーシャル・インクルージョンの実現

ソーシャル・インクルージョン(社会的包摂)とは、誰もが社会から孤立したり排除されたりすることなく、誰もが社会の一員として能力を発揮する、発揮できるように助け合う社会をめざしていこうとする考え方です。その実現のためには私たち一人ひとりが周囲の人に寄り添い、課題に取り組んでいくことが鍵となります。

ソーシャルワーク実習

ソーシャルワーク実習

大学で学んだ相談援助の技術を、実際の場面で理解し、実践することによって、ソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的とした実習です。

精神保健ソーシャルワーク実習

精神科病院や地域のリハビリテーション施設において、退院支援や就労支援等に携わることで精神保健領域のソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的とした実習です。

スクールソーシャルワーク実習

生徒が抱える問題について、学校だけではなく、家庭や地域の社会資源との繋がりの中で解決をしていく援助展開を学ぶため、学校、教育委員会や関連機関での実習を行います。

逆転の発想でマイナスをプラスへ——保井美樹教授

動きながら考えろ！

社会課題

どこに行っても同じ風景、同じ暮らし

これまでの地域開発では、狭い道を広く、古い建物を新しくし、企業や工場の誘致で雇用増を目指すことが常識でした。でも、それでは街にビルや車が増え、企業が撤退すれば人々が翻弄されるだけ。持続可能なまちづくりに必要なものを問い直さなければいけません。

保井ゼミ

地域の絆づくりと団地の新しい暮らし方

地域の新たなつながりを創造し、まちの未来の姿を共有して、具体化するエリアマネジメントがテーマです。現在、高齢化が進む団地で、みんなが集う場づくりを実践中。空き店舗でイベントを開催しながら、ここでの暮らし方を実験し、地域再生のあり方を構想しています。

課題をプラスに捉えてみる

- 人口減少
 - 定住者だけでなく交流者が増える仕掛けを考えてみよう
- 空き店舗の増加
 - 交流や起業の場づくりの可能性を考えてみよう
- 都心から遠い
 - 郊外ならではのライフスタイルを提案しよう

- 地域の人と一緒に楽しみながら取り組んでいくことがカギ
 - 大野 貴文さん
- お互いに信頼し、協力し合えば大きなことも動かせる
 - 山口 加奈さん

ゲンプクでの学び



何もなかった場所でしたが、椅子や家具、当日の飲食物などを地域の方からご提供いただきイベントが開催されました。

目指す社会



地域に根ざした新たな暮らし方の創造

地域で働き、子育てや家族・友人との時間を大事にした、ゆとりある暮らし方を実現するには、地域のなかの経済的循環や社会的な支え合いが必要です。その実現手法は、決して一つではありません。それぞれの地域で、使えないと思われていた、しかし、実は地域の宝になる資源を見つけて、新しい使い方を提案する。人とつながり、そういったチャレンジを増やしていくことが大切です。

コミュニティマネジメント実践科目

コミュニティマネジメント・リサーチ

地域社会の課題を実践的に探り出すために必要なリサーチスキルを身につけ、受講生同士でのテーマディスカッションを重ねながら、多様な考え方や分析視角を学びます。

コミュニティマネジメント・インターンシップ

地域社会の課題に対して実践的なアプローチを図っている多様な現場で、インターンシップ先が設定したプログラムに取り組めます。インターンシップだけでなく、事前・事後学習を通して、課題解決や企画を生み出すマネジメント能力を磨いていきます。

すべての物事には文脈がある——長山恵一教授

常に思考を巡らせろ！

社会課題

多様化し複雑化する、社会と心

昨今、社会はますます多様化し、それに伴い心も多様で複雑になってきています。教科書に載っている対処療法だけで解決するには限界があります。個人の背景にある家庭環境、学校、職場、友人関係などを把握し、個々に適切な対処をすることが求められています。

長山ゼミ

時代に対応して心理学を展開

日常を読み解くための入口として、現代のアニメを題材にし、どのような心理学的な意味が表現されているのかを分析しています。プレゼンとディスカッションをセットにしているので、一人の分析では気づかなかった心理学の要素を複数の視点から発見できます。

身につく力

- 多角的な視点
- 微細な変化を見落とさない洞察力
- さまざまな事態を類推した上での判断力

- 言葉の背景にある気持ちを考えられるようになった
 - 早坂 舞さん
- プレゼンを通して多くの気づきが得られる
 - 平岡 純太さん

ゲンプクでの学び



3～4人グループで、事前に登場人物や時代背景、自然描写などの情報整理を行い、発見した心理学の要素をプレゼンします。

目指す社会



知識と応用力を兼ね備えた人材の活躍

現実ではたとえどんなに知識をもっていたとしても理解がたいこともしばしば起こります。そのときに何を感じ、どう行動できるかが重要になるでしょう。自分だけの知識や経験の範囲にとどまっていたはいけません。他者とともに学ぶことで得られる多角的な視点や、状況判断能力、柔軟な対応力は、心理学関連においてはもちろん、他の分野においても幅広く生かしていくことができるのです。

心理実習・実験

心理実習

臨床心理学を中心とした心理学関連科目について、その理解を深めることを目的とした実習です。社会的活動に関わるボランティアを行い、活動の報告書作成などを行います。

●小学校でADHDの児童を支援
常に落ち着きがなかったり、教室を飛び出したり、大声を上げてしまうなどADHD(注意欠陥多動性障害)と呼ばれる問題を抱える児童によりそい、サポートを行います。

心理学実験・応用実験

心理学研究の基本である「実験法」を中心に、客観的データから人の心のメカニズムを捉える手法を学びます。様々なテーマから実験を行い、データを収集、解析していきます。

心理的アセスメント

心理検査法の基礎理論を学ぶとともに、発達検査、性格検査、うつに関する検査など、代表的な検査法について正しい実施方法や検査結果の解釈について学びます。